

平成 28 年度

北近畿地域連携センター研究助成（教員プロジェクト）

採択課題 研究成果報告書

研究課題名：大学生が関わる多世代交流型の自治活動開発に関する基礎調査
～空き家、空き間活用による学生が地域に暮らし・交流し・学ぶコミュニティ形成を目指して～

研究代表者（申請者）：谷口 知弘

共同研究者：杉岡 秀紀、佐藤 充、江上 直樹

研究経費：358 千円

研究成果の概要

本研究は、子どもからお年寄りまで楽しく暮らせる地域社会を守り創る住民自治活動において、学生が住民となり関わる多世代交流型の住民自治活動開発の可能性を探る調査を行うと共に、次年度以降の社会実装への試みを推進するためのツールとして調査結果をまとめた啓発冊子を作成した。

まずは、学生が地域に「住む」カタチとして「高齢者宅同居」と「空き家活用のシェアハウス」に注目し、学生及び住民のニーズや意識を把握するため双方にアンケート調査を行った。学生と高齢者が一つ屋根の下で暮らす「高齢者宅同居」について、学生の32%が関心があると回答し、住民の約20%が関心を持っていることがわかった。シェアハウスについては、約68%の学生が関心を持ち、住民は同じ自治会内での空き家を活かした大学生同士の同居に、約76%が良いと回答した。以上の調査結果から、「高齢者宅同居」については、双方とも関心を有する割合は学生で約3割、住民で約2割程度ではあるが、一定の関心を双方が有することが明らかになったことで社会実装への可能性があることがわかった。「空き家活用のシェアハウス」については、学生・住民ともに大きな関心を有しており、社会実装へ期待が高まる結果となった。

1. 研究開始当初の背景

(1) 地域社会の課題

地域社会の急速な高齢化により、住民自治活動の担い手の不足や高齢化が進み福祉・防災・防犯など、安心・安全な地域社会を維持する上で重要な住民による活動の継続が困難になりつつある。加えて、増加する高齢世帯や独居高齢世帯では「買い物困難」や「孤独死」など様々な問題が発生しており、このように自治機能が低下しつつある地域社会において共助による解決が困難となりつつある。

(2) 大学及び学生の課題

景気低迷が続く中であって、学生の生活を支える家庭の経済状況は厳しいものがあり、特に本学在学学生においては奨学金やアルバイトにより、学費や生活費をまかなう者が比較的多く、廉価で良好な住居の提供は勉学の時間を確保し学びの質を高める上でも重要な課題である。加えて、今後定員増を図る本学において学生確保の点からも生活費の軽減に向けた取り組みは重要と考える。

2. 研究の目的

地域と大学双方の課題に対して、大学生が住民自治の担い手として地域に暮らす場を提供することで双方の課題解決につながるの仮説を立てた。住民自治の担い手なる大学生が空き家や空き間を活用して地域に暮らし、住民との交流や共同作業を通して学び、地域に貢献するコミュニティ形成の実現を目標に、今年度は関係者のニーズ把握と社会実装に向けた啓発ツールの作成に取り組んだ。

3. 研究の方法

- (1) 高齢者宅への同居・交流及びシェアハウスに対する学生のニーズや意識を把握する。
 - ・本学在学学生へのアンケート調査の実施。
- (2) 高齢者宅への同居・交流及びシェアハウスに対する住民のニーズや意識を把握する。
 - ・調査対象地域9自治会（401世帯）へのアンケートの実施
福知山ワンダーマーケットに關係する新町商店街の自治会(上新町36、下新町25)
市が推進する街なみ環境整備事業重点区域(菱屋48、下柳21、長町66、京町36)
広小路周辺(下紺屋町56、上紺屋町61、鍛冶町52)
- (3) 社会実装に向けて調査結果をまとめた啓発冊子を作成する。

4. 研究成果と今後の課題

- (1) 高齢者宅への同居・交流及びシェアハウスに対する学生のニーズや意識に関わる調査
 - 1) 趣旨
本調査は、高齢者宅への同居・交流及びシェアハウスに関わる学生のニーズや意識を明らかにし、学生が参画する多世代交流型自治活動の社会実装実現のための基礎資料とすることを目的としている。
 - 2) アンケート調査の実施概要
実施主体：京都府 建設交通部住宅課
福知山公立大学 大学生が関わる多世代交流型コミュニティ形成研究会
実施対象：福知山公立大学1年生（50人）
実施時期：平成28年2月3日
実施方法：大学講義にて配布回収
 - 3) アンケート回収状況
回収数：50
うち白票・無効票：0票
有効票数：50票

有効回収率：100%

4) 調査結果

【資料1「しりあうBOOK、pp2-3、学生に向けたアンケートの結果」参照】

学生と高齢者が一つ屋根の下で暮らす高齢者宅同居について、学生の高齢者宅への同居・交流のある暮らし方への関心は、12%が「とても有る」、22%が「少しある」と回答し、概ね3割の学生が関心を持っていることがわかった。同居のメリットでは「家賃などの負担軽減」が最も多く65%、続いて「コミュニケーション」48%、「高齢者の手助け」46%、「高齢者の知識や経験を聞ける」30%となった。

シェアハウスについては、「とても有る」25.5%、「少し有る」42.6%と7割近い学生が関心を持っていることがわかった。

高齢者宅同居について、概ね3割程度、シェアハウスについては7割近い学生が関心を有していたことで、学生が地域に「住む」カタチとして「高齢者宅同居」と「空き家活用のシェアハウス」は社会実装の可能性があるとわかった。

(2) 高齢者宅への同居・交流及びシェアハウスに対する住民のニーズや意識に関わる調査

1) 趣旨

本調査は、大学生が関わる多世代交流型のご近所づくりに関する地域住民のニーズや意識を明らかにし、学生が参画する多世代交流型自治活動の社会実装実現のための基礎資料とすることを目的としている。

2) アンケート調査の実施概要

実施主体：京都府 建設交通部住宅課

(京都府建設交通部住宅課長 竹村好史)

福知山公立大学 大学生が関わる多世代交流型コミュニティ形成研究会

(福知山公立大学地域経営学部教授 谷口知弘)

実施対象：モデル地域とした福知山市中心市街地の9自治会の世帯(401世帯)

(上新町、下新町、菱屋、下柳、長町、京町、下紺屋町、上紺屋町、鍛冶町)

実施時期：平成29年2月末～3月15日

実施方法：自治会の協力を得て用紙配布し郵送で回収

3) アンケート回収状況

回収数：89

うち白票・無効票：0票

有効票数：89票

有効回収率：22.2%

4) 調査結果

【資料1「しりあうBOOK、pp4-5、地域住民に向けたアンケートの結果」参照】

学生と高齢者が一つ屋根の下で暮らす高齢者宅同居について、興味を示した住民は18世帯、20.2%（とてもある1世帯、少しある17世帯）あり、自治会内に高齢者宅同居が行われることに対しては、62世帯、69.7%（とても良い15世帯、どちらかといえば良い47世帯）が肯定的であった。

シェアハウスについては、自治会内での空き家を活かした大学生同士の同居に、68世帯、76.4%（とても良い14世帯、どちらかといえば良い54世帯）が肯定的であった。

以上の調査結果から、高齢者宅同居については、約2割程度ではあるが、一定の関心を有することが明らかになったことで社会実装への可能性があることがわかった。「空き家活用のシェアハウス」については、大きな関心を有しており、社会実装へ期待が高まる結果となった。

（3）社会実装に向けて調査結果をまとめた啓発冊子作成

【資料1「しりあうBOOK」参照】

本研究は、社会実装を着地点としていることから調査結果を関係者（学生・住民）に伝える工夫として、訴求力がある調査結果の報告書を作成するためにデザイナーと協働し啓発冊子として製作した。

本冊子は、学生が地域に「住む」カタチとして「高齢者宅同居」と「空き家活用のシェアハウス」のアイデアと可能性を学生・住民双方に周知し、社会実装に参画する当事者及び支援者を得ることを目的としている。

冊子製作の主目的を学生の気持ちと地域住民の気持ちをお互いが「知り合う」とし、調査結果及び学生が地域に関わる活動事例の紹介、京都府が高齢者宅同居に取り組む「京都ソリデール」事業、福知山市が空き家活用に取り組む「ふくちやまストックバンク」事業を紹介した。

本冊子は、福知山公立大学の全学生・教職員及び調査対象地域の全世帯に配布予定である。加えて、市役所広報や新聞等のメディアを通じて積極的に広報し、希望者には配布を予定している。

（4）今後の課題

本研究の中長期の目標は、少子化高齢化が進行し人間関係が希薄化する傾向にあり、住民自治活動が停滞あるいは衰退しつつある地域社会において、大学生を中心とした若い世代が住民自治活動に参画する状況が広く社会実装させるためのモデルを構築することにある。

本年度は研究の端緒として、学生が地域に「住む」カタチに注目し、「高齢者宅同居」と「空き家活用のシェアハウス」に関して、学生及び住民のニーズや意識を把握するため双方にアンケート調査を行い。先述したように、一定の関心を双方が有することを明らかにした。よって、仮説とした「学生が地域に『住む』カタチ」について、学生・住民双方のニーズや意識においては可能性があることがわかった。次年度以降は、本研究で作成した啓発冊子も活用し学生・地域双方に学生が地域に「住む」カタチに参画する当事者をつくり、支援者を増やす社会実験の段階となる。

社会実験を進めるにあたっての課題として次の3点が挙げられる。

①アイデアの周知：学生が地域に「住む」カタチとしての「高齢者宅同居」と「空き家活用のシェアハウス」は、新しい取り組みであることから、多くの学生・住民にとって

は未知の住まい方である。まず短期的には、このような住まい方のアイデアがあることを周知する活動と実践事例をつくることが重要となる。

②協働の仕組み及び事業者の育成：大学・行政・民間の協働の仕組みと事業モデルの構築及び中間支援的な活動を行う民間事業者の育成が中長期的には重要となる。

③実践へ一歩踏み出すきっかけづくり：「高齢者宅同居」について、調査より学生・住民双方に一定があることはわかったが、「若い人と生活のリズムが違うのが気になる」「旧造りの建て方の家ではプライバシーが守れない」「キッチンやトイレ、風呂、洗面所を共有について、今時の若者も高齢者も贅沢になっており、共存は無理だと思う」など年齢差による生活リズムや意識の違い、プライバシーの問題など不安の指摘もあった。不安を乗り越えるためには、まず双方が出会い交流する機会をつくることが必要であり、適切なマッチングと信頼関係形成が重要となる。

④高齢者の知恵や経験を生かす関係形成：「高齢者宅同居」について、調査より「街の中には老人があふれ、若い人の助けも必要だが、老人を憐れまないでほしい」との意見があった。「老人を憐れまないでほしい」との受け止めをした方があったことは、本研究の方法や住民への提示において、高齢者は弱者でありサービスを受ける側であるとの見方を無意識の内にしていただけのではと大いに反省することである。プロダクティブ・エイジング（創造的加齢）の概念が端的に表現しているように、高齢者は長い人生経験で獲得した知恵や経験の上にサービスを提供する側であり続け、学生と対等な関係を形成することが望まれる。呼びかけ方や暮らし方の提案において熟慮した更なる工夫が求められる。

5. 参考文献

- ・川口良仁・小伊藤亜希子著、中井孝章編著「街づくりと多世代交流-『共生ケア』シリーズ1」、OMUPブックレット No. 16、大阪公立大学共同出版会、2008
- ・佐竹葉子『『シェア』の思想/または愛と空間の関係』、LIXIL 出版、2015
- ・猪熊純・成瀬友梨・門脇耕三編著「シェアをデザインする-変わるコミュニティ、ビジネス、クリエイションの現場」
- ・野澤千絵「老いる家 崩れる街-住宅過剰社会の末路」、講談社、2016
- ・『宮崎県日南市油津商店街に様々なファンが集えるゲストハウスを作りたい!』、CAMPFIRE、<https://camp-fire.jp/projects/view/15105> (2017.03.15 確認)

【資料1】「しりあうBOOK」、多世代交流型住民自治開発研究会、2017.03.31



01

はじめに

子どもからお年寄りまで、楽しく暮らせる地域社会を守りたい。創りたい。大学や学生が関わることによって一歩前進できればと考えました。そこで、学生が関わる多世代交流型の住民自治活動の可能性を探る調査研究を始めました。

まずは、学生が地域に「住む」カタチとして「高齢者宅同居」と「空き家活用のシェアハウス」の可能性を調べました。学生の気持ちと地域住民の気持ちをお互いが「知り合う」ことから始めて、地域の人々と学生の心が通じ合うつながりが生まれる多世代交流型のご近所づくりに目指しています。

調査にご協力いただきました新町商店街・広小路商店街界隈のみならずありがとうございました。今後ともよろしくお願いたします。また、この取り組みは京都府の次世代下宿「京都ソリデール」事業と連携して進めています。

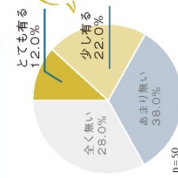
福知山公立大学 多世代交流型住民自治活動開発研究会

この本の目的

「知り合う」きっかけを作る

気持ちを「知り合う」

学生と高齢者が一つ屋根の下で暮らす「高齢者宅同居」について、学生の3割、地域住民の2割が関心を持っています。



きっかけの本 /



一緒に活動して心が通じるつながりを目指す



「地域 × 大学・学生」一緒に活動が
ぼちぼち始まっています →P9

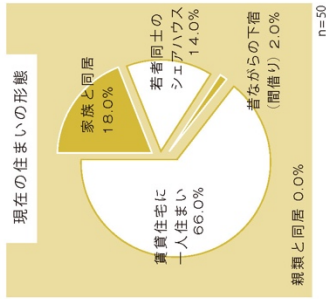
目次

- 01 はじめに / この本の目的 P.1
- 02 学生に向けたアンケートの結果 P.2
- 03 地域住民に向けたアンケートの結果 P.4
- 04 地域 × 大学・学生の取り組み P.6
- 05 福知山でもすでに始まっています P.9
- 06 『京都ソリデール事業』のご紹介 P.10
- 07 私たちが研究しています P.12

02

学生に向けたアンケートの結果 『高齢者宅への同居・交流 及びシェアハウスに関わるアンケート』

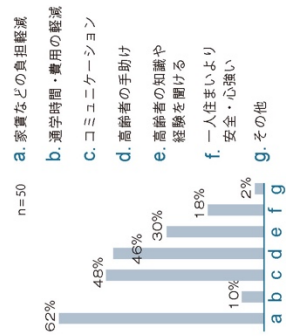
アンケート実施期間：平成 29年2月3日
対象：福知山公立大学 1 年生・50 名より回答



Q2 家賃はどの程度までなら良いと思いますか。

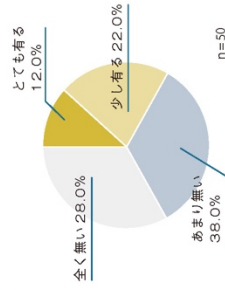
平均 2.74 万円

Q3 どのようなメリットがあると
思いますか。



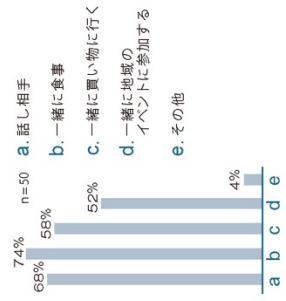
高齢者宅への同居・交流について

Q1 高齢者宅への同居・交流のある暮らし方への興味はありますか？



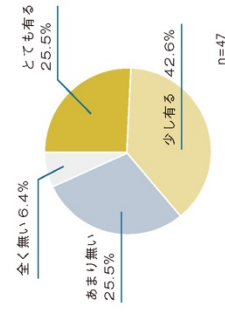
高齢者宅への同居・交流のある暮らし方について(あなた自身が同居・交流する場合を想定して)以下の項目にお答えください。(複数回答)

Q4 コミュニケーションとしてあなたが時々ならできるとはどのようなことですか。

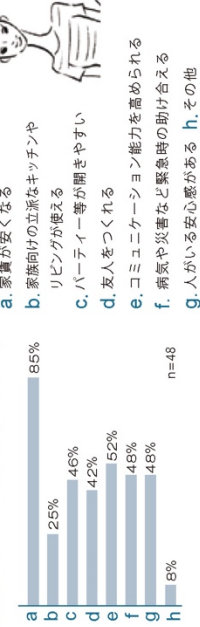


シェアハウスについて

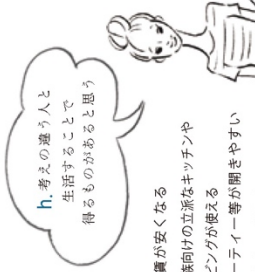
Q1 学生同士で家をシェアするシェアハウスに興味はありますか？



Q2 シェアハウスに住むとどのようなメリットがあると思いますか。



Q3 シェアハウスのある地域での活動への参加について興味のあるものは

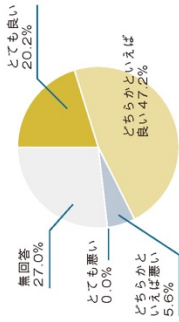


03

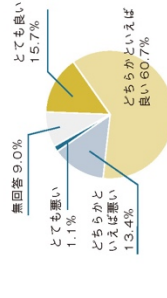
地域住民に向けたアンケートの結果『大学生が関わる多世代 交流型のご近所づくりに関する調査』

アンケート実施期間：平成29年2月末～3月15日
対象：上新町、下新町、菱屋、下柳、長町、京町、下船屋町、上船屋町、綴治町の各自治会住民
実施方法：自治会の協力を得て用紙配布し郵送して回答
(401世帯中89世帯から回答)

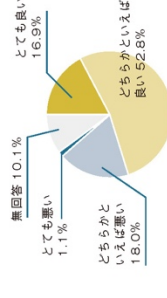
Q1 大学生が貴自治会内に居住することについてどう思われますか。



Q2 貴自治会内の空き家を活かし、複数の大学生同士が同居することについてどう思われますか。



Q3 貴自治会内の高齢者宅（あなた以外）の空き家を活かし、大学生が同居することについてどう思われますか。



大学生が自治会内に居住することは、約67%が良いと回答

理由等は「街の賑わいがよくなる」を多くの方が選択(67%)。「高齢化が進んでいる、祭ができにくくなっていて、活性化に期待」との声とともに、「生活態度、地域理解・地域交流など学生さん次第」との声も。

空き家を活かした大学生同士の同居は、約76%が良いと回答

理由等は「街の賑わいが良くなる」が(65%)と多く、「空き家が増えているので有効活用になれば」との声も。一方で、「防災や防犯面」では良くなるの方が多い(43%)ものの悪くなるを選択もあり(11%)、「以前、大學生の下宿から出火、数軒が火災にあった」ことによる。

高齢者宅の空き家を活かした大学生の同居は、約70%が良いと回答

理由等は「高齢者の見守り・交流などが良くなる」が(57%)と多く、「高齢者が多いこの地域で家族的なつき合いは学生にプラス、消防団活動への参加、町内会への活動に期待される」との声が。一方で、「生活リズムが異なるのでストレス若者の礼儀が心配、プライバシーの問題」との声と、「母屋とはなれくらの距離が良さそう、話し合うこと、お互いのおもいやり」との提案の声も。

空き室を大学生に低廉な家賃で貸して、大学生と同居する暮らし方について（あなた自身が同居・交流する場合を想定して）以下の項目にお答えください。（複数回答）

Q1 あなたの暮らし方についてのメリットがありますか。

- ・多少の家賃収入 (43%)
- ・コミュニケーション (36%)
- ・若者の手助けになる (24%)
- ・若者と暮らすほうが安全・心強い (24%)
- ・ちょっとした雑み事をお願いできる(22%)

Q2 コミュニケーションとしてあなたがとどきできないことはどのようなことですか。

- ・話し相手 (53%)
- ・一緒に地域のイベントに参加する (49%)
- ・一緒に食事 (36%)
- ・一緒に買い物に行く (15%)

Q3 ちょっとした頼み事として、あなたが時々にもお願いできたいとおもふことはどのようなことですか。

- ・草取り、雪かきなど家回りの作業 (43%)
- ・パソコンや携帯電話、家電製品の操作方法 (34%)
- ・ゴミ出し (16%)
- ・食事の準備 (8%)
- ・インターネットによる取引の手続き (6%)

メリットは「多少の家賃収入」が最多の選択

あればいいと思う家賃の分布は「2万円以下」が19人、「2万円超3万円以下」が19人、「3万円超」が11人であり、「相場」の半分くらい」との声も。

とどきできないコミュニケーションは「話し相手」が最多の選択
「一緒に食事をしたい、ワンルームマンションではわからないコミュニケーションの一手が学べる」との声も。

とどきでもちよつと頼みたいと思うことは「草刈り・雪かきなど家回りの作業」が最多の選択
「石油ストーブや扇風機の出し入れ、力仕事、電球の取り替え、高いところからの上げ下げ」との声も。

なお、この住まい方への興味（あなた自身が同居・交流してみたいか）の設問については18世帯が「ある」と回答（とてもある1世帯、少しある17世帯）

04

“日々の暮らしに小さな「楽しい」をつくらう！”
事例紹介一 地域 × 大学 × 学生 の 取 り 組 み

STUDENT WITH ...

多世代交流の場は、地域社会の多様な問題を解決する場であり、ちよっとしたアイデアや創意工夫で地域の日々の暮らしに小さな「楽しい」を生み出す場になります。「地域 × 大学 × 学生」で「楽しい」をつくる取り組みの事例を紹介します。

高齢者と一緒に小さな「楽しい」をつくる



WITH ELDERLY

地域がつくる独居高齢者の交流の場に折り紙サークルの学生がやってきました。学生さんが先生になっでちよっと高度な折り紙にチャレンジです。折り紙を通して交流が深まり、話が弾みます。

京橋スマイルさん /
京都市上京区京橋小学校区
協働：京都学生折り紙サークル
Colorful



子どもと一緒に小さな「楽しい」をつくる

WITH KIDS

元小学校区の住民団体が取り組む年中行事を活用した多世代交流の場「雛人形展」、押入れに眠っていた雛人形が並びます。子ども達に楽しい時間をと、学生達は千代紙で雛人形を作るコーナーを設けました。子どもはお兄ちゃんお姉ちゃん大好きです。大学生を紹介して子どもと地域の人々との交流が進みます。

雛人形展 / 京都市上京区待賢学区
協働：同志社大学政策学部新川ゼミ

高齢者と子どもの交流から小さな「楽しい」をつくる



WITH KIDS AND ELDERLY

独居高齢者の交流の場に参加した学生は、90歳のおばあちゃんが80歳のおばあちゃんに折り紙を教える姿を見ました。その光景からアイデアが閃き、とつても素敵な取り組みが生まれました。一週間後、90歳のおばあちゃんが地域の子ども達に折り紙を教える場が地域の協力で実現しました。

端午の節句展 / 京都市上京区待賢学区
協働：同志社大学政策学部新川ゼミ

商店街と一緒に「楽しい」をつくる

WITH SHOPPING STREET

商店街が主催するイベントでも学生の学びと活躍の場はいくつもあります。七夕の夜店で学生は毎年工夫を凝らした企画が登場します。ゴム鉄砲にミサンガづくり、学生の夜店は子ども達に大人気です。



商店街が出す夜店を手伝う学生達、夜店と一緒に切り盛りする共同作業を通して商店街の人々と学生達の交流は一気に深まります。

出町七夕夜店 / 京都市上京区出町商店街振興組合
協働：同志社大学政策学部新川ゼミ、京都市上京区待賢学区



地域 × 大学・学生の取り組み

学生がつくるゲストハウス

宮崎県日南市

事例の概要

宮崎県日南市の油津商店街は「羽ばたく商店街30選」(2016年)に選ばれた注目の商店街です。現在までに、日南市が油津商店街の再生を託す人材を全国から公募し、その人材が強いリーダーシップと行動力により、衰退した商店街を若者がチャレンジする空間に変えています。

こうしたなかで、2016年10月に、地域活性を目指す合宿型のビジネスコンテストが日南市で開催され、学生からの提案であった油津商店街でゲストハウスをオープンするという企画が採択されました。早速、提案した3名の学生は日南市に移住し、事業化の準備を進めました。そして、本年2月に「fan! -ABURATSU-Sports Bar & HOSTEL」がオープンしました。



引用： <https://camp-fire.jp/projects/view/15105>

05

福知山でもすでに始まっている交流があります

福知山ワンダーマーケット

毎月第4日曜に新町商店街で行われるマーケット地元に加え、京阪神から多数の店舗が出店します



始まりと同時に各店舗が賑わいます



福知山公立大学の学生を中心に、京都市内の大学から参加している学生も。並べから片付けまで強力なボランティアスタッフです。

人気店は大行列!



ワンダーマーケット当日、商店街界隈のいくつかのスポットへ学生達が案内するツアーを計画。参加は当日申込みでよく、もちろん無料。古い商店街に興味がある、どんなお店があるのか知りたい、いつかお店を開きたい...そんな方はぜひ。空き家や空き店舗の奥はどんな風になっているのの見学もできるかも。商店街の魅力を見学するきっかけになりそうです!



06

次世代下宿『京都ソリデール事業』のご紹介

ソリテール：フランス語で「連帯の」を意味する

SOLIDAIRE

家族じゃないけど同居・交流する住まい方



平成29年度以降は、福知山などの地域へも展開
京都府は、高齢者が自宅の空き室を大学生等へ低廉な居住負担（家賃等）で提供し、同居・交流する取り組み次世代下宿「京都ソリテール」事業を、平成28年度に京都市内を中心にスタートしました。

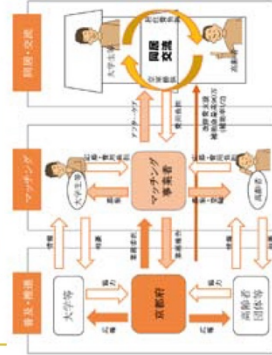
高齢者と若者の縁のある住まい方

以前は京都でも多く見られた「下宿」のように、朝夕のあいざつや、リビングでともに時間を過ごしたり、共通の趣味を楽しんだり、地蔵盆など地域のイベントと一緒に参加したり…大学生と高齢者や地域との交流を大切にしたい住まい方です。「下宿」との違いは、収益が目的でない、食事の提供はなくても良い（提供も可）、同居のルールを決めること（変更も可）などです。

大学生にご自宅（戸建て・所有）の空き室を提供しませんか？

この住まい方の経験者からは、「家賃や通学負担の軽減や学業等の時間の確保など暮らし面で大学生のサポート。一人暮らしより安心感。ちよっとしたお願いがでない元子供部屋や離れの部屋はないでしようか。その空き室を低家賃等で提供して、同居・交流しませんか。」

事業スキームイメージ



改修費支援概要

対象経費	若者と高齢者の同居に必要なリフォーム工事にかかる経費
補助額	上限90万円（補助率1/2）

【事業の趣旨等】

- 高齢者と若者の同居・交流による若者の定住促進等の取組みとして府内で京都府と事業者が連携して実施するものです。● 同様の取組みは欧州で始まり、フランスでは、パリの非営利団体「パソリテール」などが、お年寄りか若者に自宅の一部を低家賃で提供する代わりに、若者はお年寄りの心の支えになるような同居について、マッチングを実施しています。● 国内では、東京都や福井県でNPO等が取組みを開始しています。

京都市内の事例紹介（平成29年2月23日付京都新聞掲載）



07

私たちが研究しています

福知山公立大学 多世代交流型住民自治活動開発研究会

共同研究者（福知山公立大学教員）

研究代表

谷口知弘 たにぐち ともひろ
専門分野：地域政策、コミュニティ・デザイン、ワークシヨップ

佐藤充 さとう みつる
専門分野：地域産業論、中小企業論、地域イノベーション論、PBL教育

研究協力者

杉岡秀紀 すぎおか ひでのり
専門分野：公共政策、地域政策、地域公共人材論、大学まちづくり論、NPO論

江上直樹 えがみ なおき
専門分野：教育行政、教育財政、地域政策

研究協力者

京都府建設交通部住宅課
課長 竹村好史さん、副課長 橋平秀智さん
福知山まちづくり株式会社 庄田健助さん
株式会社白南建設 清水学さん

福知山公立大学 地域経営学部の
学生有志や同志社大学政策学部
新川達郎先生とゼミの学生さん、
新町商店街・広小路商店街やご
近所のみなさん、福知山ワンダー
マーケット実行委員のみなさん、
福知山市 市長公室大学政策課と
多くの方々に協力いただきながら
調査研究を進めています。今後
ともよろしくお願いたします。



一緒に取り組みませんか？

ご関心持っていただきたら
福知山公立大学谷口知弘までご連絡ください

E-mail : taniguchi-tomohiro@fukuchiyama.ac.jp
Tel. 大学代表 0773-24-7100 各口携帯 070-5492-3151

しりあう BOOK

平成28年度 地方創生 高度化 交付金 研究費 補助 教員プロジェクト
「大学生が関わる多世代交流型の自治活動開発に関する基礎調査」報告書

発行日 2017年3月31日

発行者 多世代交流型住民自治活動開発研究会
谷口知弘（研究代表）、杉岡秀紀、江上直樹、佐藤充

住所 〒620-0886 京都府福知山市字屋3370 福知山公立大学
TEL 0773-24-7100
FAX 0773-24-7170
URL www.fukuchiyama.ac.jp
デザイン スワミカコ

ぶくちやまストックバンクをご存じですか？

ストックバンクは、福知山中心市街地（まちなか）の空き家や空き店舗を所有する方と、住まいやお店として利用する方々とのマッチングの仕組みです。福知山の城下町として栄え、寺社仏閣や歴史ある街並みが残るまちなかや、昔の建物を自分らしくアレンジする暮らし方や、自分らしい小さいなお店づくりを応援しています。

借りたい（買いたい）人も
貸したい（売りたい）人も
まずはホームページを
ご覧ください



fukuchiyama-stockbank.jp

福知山まちづくり株式会社

〒620-0036
京都府福知山市中ノ205番地の1
TEL:0773-23-0266
FAX:0773-45-8008
Info@fukuchiyama-stockbank.jp

【資料2】

学生に向けたアンケート

「高齢者宅への同居・交流及びシェアハウスに関わるアンケート」調査票

高齢者宅への同居・交流及びシェアハウスに関わるアンケート

京都府と福知山公立大学では、大学生が「高齢者宅」や「シェアハウス」に暮らすことにより、高齢者の生活支援や地域との交流を促進し暮らしやすい地域社会を形成する事業を検討しています。高齢者宅同居及びシェアハウスに関わるアンケートにご協力をお願いします。（アンケートの内容については、本計画の推進に関する以外の目的で使用することはありません。）

計画の概要

1. 次世代下宿「京都ソリデール」事業：高齢者宅の空き室を低廉な家賃等で大学生へ提供して、高齢者と大学生が同居し、リビングやダイニングで交流する取組み（京都府）。
2. シェアハウスを活用した多世代交流型コミュニティ形成：空き家を活用したシェアハウスに学生が暮らし、地域住民と交流し自治活動や商業活動に参画する多世代交流型コミュニティの開発研究（福知山公立大学）。

平成29年2月

京都府 建設交通部住宅課

福知山公立大学 大学生が関わる多世代交流型コミュニティ形成研究会

お名前 _____ 性別 a. 男 b. 女 学科 a. 地域経営 b. 地域福祉 学年 _____ 回生 _____

出身 _____ 都・道・府・県 _____ 区・市・町・村 _____

※お名前は「任意」でご記入ください。

（1）住まいと通学について

1-1. 住まいの形態を教えてください

- a. 家族と同居 b. 親類と同居 c. 若者同士のシェアハウス
d. 昔ながらの下宿（大家さんの住宅に間借り） e. 賃貸住宅（1R～4～2DK等）に一人住まい
f. その他（ _____ ）

1-2. 通学時間（片道）はどれくらいですか

- a. 15分以内 b. 30分以内 c. 1時間以内 d. 2時間以内 e. 2時間を超える

（2）高齢者宅への同居・交流について

2-1. 高齢者宅への同居・交流のある暮らし方への興味（皆さん自身が同居・交流してみたいか）はありますか

- a. とても有る b. 少し有る c. あまり無い d. 全く無い

【資料3】

地域住民に向けたアンケート

「大学生が関わる多世代交流型のご近所づくりに関する調査」調査票

みなさま

アンケート調査へのご協力をお願い

時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

私どもは、「大学生が関わる多世代交流型の自治活動開発に関する調査」として、地域の空き家や高齢者宅の空き室を活かすことで低廉な家賃でまちなかに大学生が暮らし、地域のみなさんと一緒にまちなかの地域活動などに大学生が貢献できるまちづくりを図るための基礎調査に取り組んでいます。

この度、福知山市が街なみ環境整備事業に取り組むエリアの中心部の自治会の皆様を対象にアンケートを実施させていただくことで、皆様のお考えや実際の住まい方について教えていただきたく存じます。なお、ご回答の内容につきましては、目的外に使用することはありません。

時節柄なにかとお忙しいところ誠に恐縮ですが、別紙アンケートにご記入のうえ3月15日までに同封の返信洋封筒にてご投函ください。皆様のご協力を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

平成29年2月

京都府建設交通部住宅課長 竹村好史

福知山公立大学地域経営学部教授 谷口知弘

〈問い合わせ先〉

京都府建設交通部住宅課 副課長 椋平(むくひら)

〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入る

TEL075-414-5368 FAX075-515-5359

アンケート用紙

○印、又は記述により、皆さんの声等をお聞かせください。

お名前		自治会	自治会
-----	--	-----	-----

1 大学生が貴自治会内に居住することについてどう思われますか（1つに○）

ア. とても良い イ. どちらかといえば良い ウ. どちらかと言えば悪い エ. とても悪い

理由等(各項目ごとに1つ○)

- ・祭りなどの地域行事 a良くなる b変わらない c悪くなる
- ・地域住民との交流 a良くなる b変わらない c悪くなる
- ・防災や防犯面 a良くなる b変わらない c悪くなる
- ・子供の見守り・教育など a良くなる b変わらない c悪くなる
- ・高齢者の見守り・交流など a良くなる b変わらない c悪くなる
- ・街の賑わい a良くなる b変わらない c悪くなる
- ・その他（自由に記述ください）

[]

2 貴自治会内の空き家を活かして、複数の大学生同士が同居することについてどう思われますか（1つに○）

ア. とても良い イ. どちらかといえば良い ウ. どちらかと言えば悪い エ. とても悪い

理由等(各項目ごとに1つ○)

- ・防災や防犯面 a良くなる b変わらない c悪くなる
- ・街の賑わい a良くなる b変わらない c悪くなる
- ・その他（自由に記述ください）

[]

3 貴自治会内の高齢者宅（あなた以外）の空き室を活かして、大学生が同居することにどう思われますか（1つに○）

ア. とても良い イ. どちらかといえば良い ウ. どちらかと言えば悪い エ. とても悪い

理由等(各項目ごとに1つ○)

- ・地域住民との交流 a良くなる b変わらない c悪くなる
- ・防災や防犯面 a良くなる b変わらない c悪くなる
- ・高齢者の見守り・交流など a良くなる b変わらない c悪くなる
- ・その他（自由に記述ください）

[]

4 空き室を大学生に低廉な家賃で貸して、大学生と同居する暮らし方について、(あなた自身が同居・交流する場合を想定して)以下の項目にお答えください。

①あなたの暮らし方にどのようなメリットがあると思いますか。(当てはまるもの全てに○をつけてください。)

- a 多少の家賃収入 b コミュニケーション c 若者の手助け(役に立てる)
 d 若者と暮らす方が安全・心強い e ちょっとした頼み事をお願いできる
 f その他

[]

②コミュニケーションとして、あなたがときどきならできることはどのようなことですか。(当てはまるもの全てに○をつけてください。)

- a 話し相手 b 一緒に食事 c 一緒に買い物に行く
 d 一緒に地域のイベントに参加する(地藏盆・お祭りなど)
 e その他

[]

③ちょっとした頼み事として、あなたがときどきにでもお願いできればいいと思うことはどのようなことですか。(当てはまるもの全てに○をつけてください。)

- a ゴミ出し b 食事の準備 c 草取り・雪かきなど家周りの作業
 d パソコンや携帯電話、家電製品の操作方法
 e インターネットによる取引の手続き
 f その他

[]

④家賃はどの程度あればよいと思いますか。

[]万円 ※3万2千円の場合は(3.2)、無料の場合は(0)を記入

5 空き室を大学生に低廉な家賃で貸して、大学生と同居する暮らし方に興味(あなた自身が同居・交流してみたいか)はありますか。(1つに○)

- ア.とても有る イ.少し有る ウ.あまり無い エ.全く無い

その他理由(自由に記述ください)

[]